



文化芸術の力を教育現場へ展開

「アート的手法を活用した学び」推進事業をスタート！！

～教員向けワークショップの参加者とプログラム実施校を募集します～

県及び県教育委員会では、教育現場で「アート的手法を活用した学び」を進めています。この度、本事業の内容や令和5年度のプログラムをご理解いただくための教員向けワークショップの参加者、並びに当該プログラムを実施していただく学校を募集しますので、お知らせします。



1 「アート的手法を活用した学び」推進事業とは

第2次文化芸術振興計画の重点的施策に位置付けた事業のひとつとして、文化芸術が持つ力を教育に生かし、子どもたちの表現力やコミュニケーション力、自己肯定感を高めることができるよう、演劇などの身体表現や美術作品の対話型鑑賞といった「アート的手法」を生かしたプログラムを教育現場で実践しながら、県内の多くの学校等への定着を目指す取組。

2 令和5年度実施プログラム

「表現とコミュニケーション」プログラム	「対話を通した鑑賞」プログラム
演劇、ダンスを応用したワークショップを通じて、身体表現やコミュニケーション力、チームワーク等を高めることにつなげる	美術作品を見ながら、発見や感想、疑問などを共有し、話し合うことで、観察力や他者理解、自己肯定感を高めることにつなげる

3 教員向けワークショップの参加者募集（締切：5月24日（水）、各会場の定員30名）

	東北信会場	中南信会場
日時	5月31日（水） 9:30～16:30	6月8日（木） 9:30～16:30
会場	東御市文化会館 リハーサル室	長野県松本合同庁舎 502号会議室
対象者	県内の学校の教職員及び教育関係者	
内容	① 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に繋げるための取組 ② 「表現とコミュニケーション」プログラムの体験、授業での位置付け ③ 「対話を通した鑑賞」プログラムの体験、授業での位置付け	
申込み	 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 二次元コードを読み取り、 ながの電子申請サービスで 申込みをお願いします </div> 	

4 プログラム実施校の募集（締切：6月12日（月）、募集校数：最大6校）

実施期間・会場	6月19日（月）～ 9月29日（金） 各学校の教室、多目的室等
対象	県内の公立の小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校
申込み	<ul style="list-style-type: none"> ・専用のエントリーシートに記入の上、下記文化政策課芸術文化係のメールアドレスに、電子メールで提出をお願いします。 ・エントリーシートのデータをご希望の場合は、文化政策課芸術文化係までお問い合わせをお願いします。

県民文化部文化政策課芸術文化係
 （課長）伊藤 博隆（担当者）清水 萌美
 電話：026-235-7282（直通）
 F A X：026-235-7284
 メール：geijutsu@pref.nagano.lg.jp

教育委員会事務局学びの改革支援課
 義務教育指導係
 （課長）臼井 学（担当者）望月 光祐
 電話：026-235-7434（直通）
 F A X：026-235-7495
 メール：kyogaku@pref.nagano.lg.jp

これまで携わったファシリテーター（県内在住）



若林 優也 さん

えんげきで学ぶ研究所 代表
【活動拠点：長野市】
「演劇」を使ったコミュニケーションワーク
ショップを企画・運営

実務例

ロールプレイングで自身の感情や思いを表現
長野県伊那養護学校
許しがたい状況で、「大丈夫だよ」と伝える方法を考えてロール
プレイング。相手との意思疎通を図ることを目指した。



小林 英樹 さん

Enziru LifeTheater 陽のあたる教室 代表
【活動拠点：飯田市】
ティーチングアーティスト・俳優として、
演劇教育（ドラマ教育）にも取り組む

実務例

総合学習で取り組む演劇をブラッシュアップ
伊那市立東春近小学校
6年生20人が、コミュニケーション力や表現力、想像力を高める
ことを目的に、アイスブレイクを兼ねたゲームやシーンづくり
などを行った。



清水 洋幸 さん

一般社団法人あそび心BASE
アフタワ・バーバン信州 理事長
【活動拠点：上田市】
「あそび・表現・関わり」をテーマに多岐に
わたる活動を実施

実務例

殻をやぶりの、友達の意外な一面に気づく
長野市立徳間小学校
表現あそびやシーンづくりで、自分らしさを発揮・表現。他者を
感じながら自分との違いや表現することの多様性を実感できる
ようにした。



二瓶 野枝 さん

ダンサー・振付家・舞踊教育者
【活動拠点：松本市】
教育機関で講師を務めるなど、身体表現
の重要性を伝える教育活動にも力を注ぐ



分藤 香 さん・矢萩 美里 さん

にちカラ（にちようカラダのワークショップ）
【活動拠点：松本市】
表現することのおもしろさを発見できる「体遊びワー
クショップ」などを開催

体験してみよう

伊那養護学校高等部

- ・いろいろなセリフをいろいろな言い方を変えながら相手に伝えるのが面白かった
- ・思っていることを言えることができた。演劇もしてみたい

東春近小学校6年

- ・ゲームは、失敗しても友だちと笑って楽しむことができた
- ・シーンづくりは、「恥ずかしい」より「楽しい」の方が大きかった

徳間小学校6年

- ・体や顔だけの表現で、その場の様子が分かるんだと思った
- ・あまり普段はかかわらない人も遊んでかかわることができたのが良かった

先生

- ・教師以外の大人とコミュニケーションを図ることでよい緊張感があった。表現することにおいて、演劇的な要素、手法が有効だということを実感した
- ・生徒の心を開放させるファシリテーターの技術がすごい。新しい表現方法を見出したり、生徒たちの内に秘めている感情や他者への思いを引き出してくれた
- ・ファシリテーターが、児童の表現する姿一つ一つを位置づけるコメントを全体に共有してくれたことで、次第に、一人ひとり異なる表現ができるようになっていった
- ・普段は少し斜に構える児童やそもそも積極的になかなか表現しようしない児童の表情が豊かで、迫真の演技をしていたことに驚かされた
- ・ワークショップでは、普段関わらない友だちと協力する様子や、知らなかった友だちの良さ気づくことができた様子を目にした
- ・さまざまな個性を持った仲間と関わりながら、皆で一つのものを創り上げる中で、自分の考えを表現する力や、他者を認めたり、協力したりすることを学べると感じた

教員向けワークショップ

2022年度は県内2会場で「子どもの発想を生かす育てる学びづくり 教員向けワークショップ」を実施しました。
ファシリテーターの方々も講師を務め、学校で行うワークショップを実際に体験。授業改善につなげるための取組についての紹介や、授業での位置づけの実践を学ぶ時間も設けました。



実際のプログラム実施・授業の様子はこちらから



表現することは
楽しい！

学校がアートを活用した学びを いつでも実施できる環境づくり

“表現とコミュニケーション”プログラム

演劇をはじめとしたアートの手法を用いて、身体表現や皆で相談して一つのテーマをやり遂げることを通じて、自分の考えを伝えたり、相手の意見を受け入れることにより、コミュニケーション能力や表現力、創造力を学び、育むことを目指します。

問い合わせ先

長野県県民文化部文化政策課 芸術文化係 電話：026-235-7282 F A X：026-235-7284 メール：geijutsu@pref.nagano.lg.jp
（この取組は、長野県教育委員会事務局学びの改革支援課も協力しています）



しあわせ信州

長野県

子どもたちのコミュニケーション能力や表現力、創造力を育む授業

主体的・対話的で深い学びの機会を

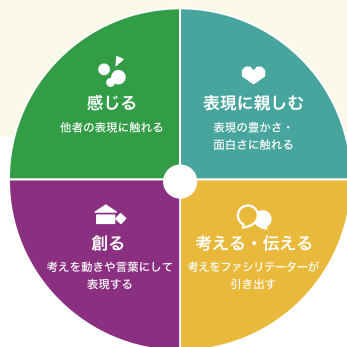
長野県では、長野県文化芸術振興計画に基づき、県内の学校において、児童生徒が演劇的手法を通じてコミュニケーション能力や表現力、創造力を学び育むことを目的として、「演劇による学び」推進事業を実施しています。演劇をはじめ、さまざまなアートの手法を取り入れたワークショップなどを学校・教育関係者に紹介するとともに、ファシリテーターやコーディネーターなど文化芸術関係者のネットワークを構築。子どもの発想を生かし育てる活動を取り入れ、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に生かせるよう、支援を進めています。

2023年度からは、美術作品をみながら、発見や感想、疑問などを交わし合う、対話型鑑賞も取り入れ「アートを活用した学び」をさらに推進していきます。



表現とコミュニケーションプログラム

演劇やダンスを応用したワークショップを通して、身体表現やコミュニケーション、創造力、チームワーク、他者理解、自己肯定感などが高まる。



事例で見る授業実施までの流れ 上田市立川辺小学校1年生の場合

01 エントリーシートの提出

学校や学級の課題・要望を記入して提出。

●課題

- 教師対児童では、比較的自分を表現することができるが、児童同士になると自分の思いを伝えることができないことが多い。
- 自分の思いを伝えようと、友だちに嫌われるのではないかと、仲良くできなくなるのではないかと考えている児童もいる。
- 他者と何かするということは楽しいという体験、他者を信頼してみるきっかけになるような体験ができればと考えている。

02 ファシリテーターの検討

課題・要望をもとに、紹介するファシリテーターをコーディネーターが検討します。

●コーディネーター

- 長野県民文化部文化政策課
- 長野県教育委員会事務局学庁の改革支援課

県内で活動する人達からコーディネーターが検討

●今回のファシリテーター

清水 洋幸さん
一般社団法人あそび心BASE
アフタフ・バーバン信州 理事長
【活動拠点：上田市】

03 学校とのミーティング

ファシリテーターを交えた打ち合わせを行います。コーディネーターも参加します。学校や学級の実情、児童生徒が学習している内容を詳しく伺うことで、より効果が期待できるプログラムを組み、提案します。

●ワークショップの方向性

お互いを知る、力を合わせて一つのことに取り組む、他者と関わる楽しさを感じられるもの。

04 直前ミーティング

授業の目的などを共有します。当日必要なものや、タイムテーブルなど詳細を確認します。必要に応じて、教員があらかじめワークショップを体験することもできます。

●プログラム概要・テーマ

- ①表現あそびを通して、一人ひとりが自分らしさを発揮・表出することを目指す。
- ②互いに関わり合う中で、それぞれの持っている人のおもしろさを感じてもらう。
- ③ウォーミングアップ→グループ活動

05 授業実施

授業の様子。子どもたちは楽しそうに活動しています。

●子どもたちの声

- 巻物さがしのときに、みんなで協力して探したのがおもしろかった。
- 1人でいるいるな物になれたし、友だちと一緒に作ったのも楽しかった。
- 公園作りで、自分たちのも良かったけど、となりの班が作ったのがすごかった。

06 振り返り

当日の授業や児童生徒の様子を振り返ります。コーディネーターも参加します。ファシリテーターが第三者目線で感じたことなども共有し、今後の授業への生かし方を考えます。

●先生の声

- どのような表現をしても認められ、受け入れられるという安心感がありました。
- 最後は全員で公園作りに参加して、不思議と一体感が生まれました。

振り返りから

- ワークショップ後の振り返りで、どんな実践ができそうかアドバイスをいただいたことで職員の意識が高まり、今後の学級運営につながるものとなりました。
- ワークショップ後、いつもは恥ずかしがって小さな声になってしまう生徒が自分の思いを伝えようとする様子が見られました。



4つのポイント

- ポイント01** 演劇の仮想的な世界を創造することにより抵抗感を和らげた状態で自己表現できる環境をつくる。
- ポイント02** 個々の表現の多様性に触れ、普段の生活でのコミュニケーション能力の向上につながる。
- ポイント03** グループで一つの作品を創作することで、他者性に触れ、他者理解や合意形成をとる経験をする。
- ポイント04** 自らの発想と身体で発表し、他者から理解・評価を得ることで、自己肯定感が高まる。

これまでの実施状況

	学校名	学年	体験人数
2019. 7. 12	松本市立開智小学校	小学6年生	26名
2020. 1. 8	駒ヶ根市立赤穂東小学校	小学5年生	29名
2020. 2. 6	長野市立棉花小学校	小学1年生	27名
2021.11.25	大日向小学校(佐久穂町)	小学1~3年生	78名
2022. 6. 3	大日向小学校(佐久穂町)	小学1~3年生	86名
2022. 6. 9	大日向小学校(佐久穂町)	小学1~3年生	86名
2022.12. 1	長野市立徳間小学校	小学6年生	37名
2022.12. 14	伊那市立東春近小学校	小学6年生	21名
2022.12. 16	上田市立川辺小学校	小学1年生	29名
2023. 1.24	長野県伊那養護学校	高等部1~3年生	30名